

北海道新聞

平岸の歴史を訪ねて

自然史編

第7回・原始の平岸

この連載は今後、縄文編く開拓編へと進む予定ですが、その前に人間の手が加わる以前のこのあたりがどんな様子だったのか想像してみよう。

今の高台地域は、人工的な改変により平坦化されていますが、もともとは尾根と谷が繰り返す起伏にとんだ地形でした(図1)。尾根と谷は今の白石藻岩通りとちよほど垂直に交わるように南北に発達していました。高台小学校のあたりから北に平岸霊園を望むと二本の尾根の間の谷に霊園が広がっているのが見えます(写真1)。この写真の左側(西側)の尾根は、今の静療院から4条17丁目のあたりを経て、PL教団を抜け、4条13丁目のあたりまで続いていました。明治44年にアンパン道路が開削される際に撮られた写真にこの尾根が写っています。現在残されている地形よりはるかに大きな尾根になっていたことがわかります(写真2)。

この尾根よりもう一本東側の尾根は、平岸霊園から平岸プールを通り、HTBを経たところで北東方向へ斜めに折れ曲がり、5条10丁目のパシフィックヒルタウンにかけて広がり、このあたりの最高位を保っています。この二本の尾根の間は深い谷になっており、谷底には小川が流れていました。現在ではこの谷は埋め立てられ、霊園になっています。

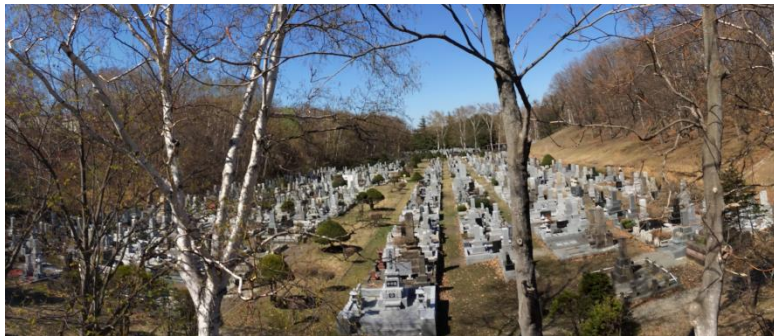


写真1. 高台小学校付近から北に望む平岸霊園



写真2. アンパン道路開削風景(今の南平岸交番付近から高台側を望んだところ)



図1. 大正7年の高台地域の地形(図の真ん中を東西に走っているのがアンパン道路)

ます(札幌霊堂の前から入ったあたり)。また、今ではあまり形跡が残っていませんが、豊平区役所〜陵陽中学校〜エネオス(白石藻岩通り沿い)にかけても尾根になっており、その両側は谷になっていました。現在東側の谷は埋め立てられ、羊ヶ丘通りになっています。西側の谷は今のココスのあたりから陵陽中学校のグラウンドを抜け、6条12・13丁目の真ん中を通り、白石藻岩通りを越え、ベルコの駐車場の奥の方まで続いていましたが、埋め立てにより平坦化されてしまいました。

陵陽中学校の裏手(豊平区役所側)の小山に当時の面影が残されています。今はアカシアが生い茂った下には、笹や雑木が生えていますが、昔は、イタヤカエデやミズナラ、コナラ、白樺などを主体に、山ブドウやこくわの蔓が茂みの上に重なって暗い密林を作っており、この密林は高台一帯に広がっていました。

また、HTBや5条12丁目のエメラルドグリーンヒルズのあたりは“栗山”と呼ばれ、大きな栗の木が茂っていました。高台の裾に広がる平地には、ハルニレ、ハンノキ、アカダモ、ヤチダモなどのうっそうとした冷温広葉樹の森が広がっていました。今でもその面影は真駒内のオリンピック施設の周辺や中央区の北海道大学植物園に見ることが出来ます。森には多くの動物がおり、ウサギ、シカ、キツネ、タヌキ、ヒグマが明治期の開拓当時でも頻繁に見かけられました。鳥もいました。ワシ、クマタカ、トビにはじまってホトトギス、カケス、カッコウ、ウグイス、アカゲラ、アオゲラ、クマゲラ、カワセミといったたくさんさんの鳥が森の中を飛んでいました。

参考資料 東裏親交会(1980)、『さなぶり 東裏百年ものがたり』、東裏親交会。

札幌市立陵陽中学校(1971)、『郷土史 陵陽』、札幌市立陵陽中学校開校十周年記念協賛会。

バックナンバーお届けいたします…バックナンバー保管してありますので、ご希望の方は販売所までお気軽にご連絡ください。ご自宅までお届けいたします。

取材協力のお願ひ…この連載では現代にいたるまでの平岸の歴史を紹介する予定です。昔の思い出や資料・写真など平岸の歴史に関わることをご存知の方はどんなことでも結構ですのでお気軽にお知らせください。

「編集後記」 『平岸の歴史を訪ねて』の作り方

この連載をどのように作っているのかという質問をいただきましたので、こちらで簡単に説明します。インターネットは検索対象がローカルすぎてヒットしないのであまり活用していません。まず最初にあたるのは文献資料で、札幌市と豊平区近郊の郷土史、必要に応じて各種専門書、古地図です。ここで、頭の中に昔のイメージを膨らませます。次にそのイメージに基づいて実際に現地を歩き、昔の痕跡が残っていないか確認します。最後に、周辺住民の方に昔のことをご存じないか聞き込みします。そういうわけで、突然取材にお伺いすることがあるかもしれませんが、その際はご協力よろしくお願ひいたします。

執筆者…道新永田販売所営業主任 伴野卓磨

1977年室蘭市生まれ。金沢大学理学部地球

学科博士課程(古生物学専攻)を修了後、六花亭に入社。2011年より現職。

◇発行元◇

北海道新聞永田販売所

〒062-0936

札幌市豊平区平岸6条13丁目7-18

TEL: 0120-128-348

Fax: 0120-128-358

◆この連載は毎月1日・15日の道新朝刊に折り込みいたします